

授業科目 緩和ケア看護学演習

【担当教員名】 栗原 弥生		対象学年	3	対象学科	看護
		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【概要・一般目標：G10】 緩和・ターミナルケアを必要とする対象を理解し、緩和・ターミナル期の経時的変化に応じた適切な患者・家族の援助法を習得する。 机上のモデル事例による看護問題を捉え、患者・家族の必要とする看護計画とトータルケアの検討および看護技術法を演習し習得する。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 緩和ケア・ターミナルケアの考え方と看護の役割を理解する。 2. ターミナル期にある人の特徴を理解し看護援助を習得する。 3. ターミナル期にある人の症状緩和や緩和ケアにおける苦痛や苦悩を軽減しQOLの獲得を図る。 4. ターミナル期のコミュニケーションを図り、ニーズ把握、自己決定、倫理的問題の擁護を支援する。 5. グリーフワークの必要性を理解し、家族・遺族に対するケアを習得する。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	緩和・ターミナルケアの考え方と看護の役割			1	
2	ターミナル期にある対象の特徴と理解			2	
3	ターミナル期にある対象の看護援助			2	
4	緩和ケアの症状緩和の薬剤使用の対処法			3	
5	ターミナル期における緩和ケアの実践法			3	
6	ターミナル期における緩和ケアの実践法			3	
7	ターミナル期のコミュニケーション			3	
8	グリーフワーク・家族・遺族のケア			5	
9	事例検討グループワーク			3.4	
10	事例検討グループワーク			3.4	
11	事例検討グループワーク			3.4	
12	事例検討グループワーク			3.4	
13	緩和・ターミナルケアに必要な看護技術演習			3.5	
14	緩和・ターミナルケアに必要な看護技術演習（死後の処置法について）			3.5	
15	まとめ				
	レポート課題：緩和ケア、ターミナルケアにおける死生観、看護観の看護援助への影響について				
【使用図書】		<書名>		<著者名>	<発行所> <発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		緩和・ターミナルケア看護論 緩和ケア 生と死の看護論 新体系看護学	成人看護学 別巻 10 35	ヌーヴェルヒロカワ 医学書院 メディカルフレンド	
その他の資料		必要に応じて資料を配布する			
【評価方法】 定期試験（60%）レポート（40%）で評価する			【履修上の留意点】 参考書を活用し主体的に学習する。		